

外線電話対応の委託に伴うお願い

この度、当院では電話対応におけるさらなる品質向上と、より円滑な医療提供体制の構築を目的として一部の外線電話対応業務を専門の電話対応サービス会社へ施行委託することとなりました。それに際し、皆さま方におかれましては、お電話頂く内容について具体的なお要件をお伝え頂く必要があります。具体的には、次のとおりです。

これまで：「処方箋内容の件で、確認したい」

これから：「患者(氏名)さんの処方箋内容の件で、確認したい」

なお、個人情報や通話内容の取り扱いについては、当院のプライバシーポリシーに基づき委託先とも厳正に契約を交わし、適切な管理を徹底しております。

今後も皆さまにとって安心・安全な在宅医療の提供を目指して参りますので引き続きご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

まずは地域支援室にご相談ください

- 在宅でどんなことができるの？
- 費用はどれくらいかかるの？
- 病院から自宅に連れて帰りたいけど、どうしたらいいの？

看護師
横井はるか

地域支援室

看護師
中島由加

在宅療養に関わる様々な疑問やお悩みに経験豊富なスタッフがお答えします。

当院へのご依頼方法

① みどり訪問クリニックに電話

052-680-7030に電話してください。事務が患者さんの情報を簡単にお伺いします。

② 患者依頼シートの記入とFAX

QRコードから患者依頼シートをダウンロードしていただき、記入後FAXをお願いします。(ページ下部にございます。)



③ 担当者から連絡します

患者依頼シートを確認後、当院の地域連携室から折り返しご連絡させていただきます。



みどり訪問クリニック

愛知県名古屋市緑区簗山1-109-1シティコーポ小坂南102号

お問い合わせ

☎ 052-680-7030

【HP】 <https://midori-hel.net/>

【FAX】 050-3737-0026



SNSも
チェック!



Facebook

みどり訪問クリニック



Instagram

@midorihcl



LINE

ID: @169wahvx



AIとDXの力で

仕事を速く・正確に!



CONTENTS/目次

P 2 連載 在宅ならではのおすすめグッズ

P 3 連載 みどりくんの在宅医療コトバンク

P 4 特集 「AI」と「DX」で仕事をすばやく正確に!

P 6 連載 みどくり図書館

P 6 連載 みどくり栄養部

P 7 連載 スタッフ紹介のコーナー

P 7 連載 MIDORI COLUMM

P 8 お知らせ MIDORI INFORMATION

保存版

スタッフの知恵を伝授！

連載第9回
在宅ならではの
おすすめグッズ

「こんな時困ったなあ」
「便利な物ないのかな？」
訪問であるあるの悩みに
当院スタッフが
実際に使ってみて
おすすめできるグッズを
紹介します！



超軽量90g
小さなスグレモノ

高撥水UVエアウィンド

シェルトレックフーディー

在宅訪問に“軽く備える”という選択肢を

在宅医療や介護の現場では、天候や気温の変化に左右されながら、利用者宅を何件も訪問することが少なくありません。特に春から夏にかけては、強い日差し、急な小雨、冷房後の屋外移動、風の強い日など、服装調整が難しい季節です。そんな訪問業務の「ちょっと困る」に伝えてくれそうなのが、ワークマンの「高撥水UV AIR ウィンドシェルトレックフーディー」です。

この商品の大きな特徴は、Lサイズで約90gという軽さです。存在を感じにくいほどの携行性に驚かされます。訪問看護師やケアマネジャーの皆さんにとっても、バッグに常備しておける軽さは大きな利点です。訪問先ごとに屋内外を出入りし、移動中に天候が変わる場面でも、必要な時だけきっと羽織れる一枚として使いやすいでしょう。

機能面では、高撥水、防風、UPF50+・紫外線97%カット、

花粉リリース、防汚、反射コードなど、日常の外回りにも役立つ要素がそろっています。完全なレインウェアではありませんが、急な小雨や風、日差し対策としては心強い存在です。特に自転車・徒歩・車を組み合わせて移動する職種では、体感温度の変化に対応しやすい点が魅力です。

また、両サイドポケットや胸ポケットにはベンチレーション機能があり、ムレを逃がしやすい設計です。暑い時期の訪問では、利用者宅に入る前に汗や不快感をできるだけ抑えたいもの。薄手で軽く、熱がこもりにくい仕様は、清潔感を保ちたい対人支援職にとっても実用的です。

さらに、フード内に収納できるパッカブル仕様で、ポケットティッシュほどのサイズにまとまる点も便利です。訪問バッグや車内、事業所のロッカーに入れておけば、「今日は必要ないかも」と思う日でも負担なく携

帯できます。価格も2,900円と手に取りやすく、個人の備品としても、事業所での推奨アイテムとしても検討しやすいでしょう。在宅ケアの質は、専門知識だけでなく、移動中の安全性や体調管理、身だしなみの整えやすさにも支えられています。軽く、かさばらず、日差し・風・小雨に対応できるウィンドシェルは、訪問現場で働く人の“小さな安心”を増やしてくれるアイテムです。



みどり訪問クリニック スタッフ紹介のコーナー



総務

黒谷 舞さん

好きな食べ物は
ウニとマスカット

総務に所属しております、黒谷です。新卒でアパレル店員として勤務し、その後耳鼻科の医療事務を経て、在宅医療業界へ転身しました。縁の下の力持ちとして、職員により良い職場環境を提供できるよう日々精進しております。趣味は御朱印集めや香水集め、ジグソーパズルです。また、カービィが大好きでグッズも集めています！

院内外のぶち情報 MIDORI COLUMM

豊明市の講演会に登壇しました！

6月27日、傾聴ボランティアとよあけ様主催の講演会「在宅医療を知ろう！」に、熊井医師と管理栄養士の村瀬が登壇しました。参加者に向けて、熊井医師は「在宅医療とは？」、村瀬は「“好きなものを美味しく食べたい”を支える」をテーマに講演しました。



会場では、認知症の方や一人暮らしの方が在宅で生活している事例に驚く声や、「実際の症例をもっと知りたい」といった声も聞かれ、地域の皆様の関心の高さを感ずる機会となりました。

特集 『AI』と『DX』^{※1}を活用し 仕事をすばやく正確に！

みどり訪問クリニックでは、毎日繰り返されるルーティン業務やデータ入力をDXによって効率化し、より働きやすい環境を実現するため、さまざまな取り組みを進めています。

普段の業務と並行して進めています

当院のDX担当・大野先生に聞いてみた！

DXに取り組むようになった きっかけは？

A もともとせっかちな性格で効率化に関心があり、救急の経験から時間へのこだわりも強くありました。子どもが生まれ、仕事も家庭も諦めたくない中で「いかに効率化して両立するか」が人生の課題に。ライフハック、プログラミングに取り組む中、2025年の在宅医療連合学会でRPAの発表に出会い、実際に動く自動化に衝撃を受けたことが、院内業務の自動化に取り組む転機となりました。

※2

苦労した点はありますか？

A AIは日々進歩し、最新情報も数か月で古くなるため、常にアンテナを張り続ける必要があります。周囲に教えてくれる人もおらず、AIに質問しながらトライ&エラーを重ねました。RPAは動かすまでは簡単でも、実装と安定運用のハードルは高く、初期実装、Webの仕様変更による組み直しなどで眠れない夜が続いたこともあります。

現時点（2026年8月）で おすすめのAIは何ですか？

A おすすめはClaude、ChatGPT、Geminiの順です。Claudeは精度が高く建設的で、Word/Excel/PPT連携で効率化に強いのが特徴です。ChatGPTも進化中ですがClaudeには及びません。GeminiはGoogleとの連携時に便利です。

実際にどれくらい 効率化されたの？

A RPAだけで年間約700時間の業務削減を実現しています（手計算による試算）。AIの効果は未測定ですが、院内でもAI活用に取り組む、使いこなせるスタッフが増えていることから、全体では年間1,000時間程以上の短縮につながっていると見込んでいます（AIによる試算）。



『DX』で効率化された！ 院内の『DX』事例

CASE 1

RPAを使用した 印刷業務の自動化

予定表や処方箋など、院内では毎日さまざまな書類を印刷しています。これまでは各部署のスタッフがカルテを一件ずつ操作し、必要な書類を印刷していました。そこで、決められた操作を自動で行うRPAを導入。毎日決まった時間に必要な書類が自動で印刷されるようになり、スタッフの作業負担を軽減できました。

CASE 2

MCSに届いた連絡の カルテ自動転記

MCSは、訪問看護師やケアマネジャーなど、多職種と患者さんの情報を共有するための連絡ツールです。これまでは、届いた連絡の内容をアシスタントが患者さんのカルテへ一件ずつ転記していました。RPAの導入により、MCSに連絡が届くと、該当する患者さんのカルテへ内容が自動で転記されるようになりました。

他にもRPAは一部のFAX業務、AIは資料作成、文書要約、研究補助、ブレインストーミング、文章校正、アイデア出し、勤務表作成などに活用。資料・スライド作成は、人による確認や推敲を行いながらも、所要時間をおおむね半分に短縮できました。大量の文書の要約や必要箇所の抽出にも活用しています。患者情報は入力せず、それ以外の業務に限定することで、安全面に配慮しながら効率化を進めています。

スタッフに聞いてみた！

『DX』や『AI』を導入してどうなった？



地域支援室

患者情報のまとめや院内共有を手作業から自動化となり、大幅な業務時短となりました。そのため、判断や工夫が必要な部分に集中したり、人と関わることに専念できるなど、AIと役割を分け合うことで、仕事の質の向上にも繋がると感じています。

事務

診療報酬改定の疑義解釈資料の収集をAIに自動化しました。最新資料を集めて要約し、毎週チャットワークへ自動投稿する仕組みです。欲しい情報に最短でアプローチでき、資料作りの時間が大幅に短縮されたのが大きな変化です。



管理栄養士

RPAの導入により事務作業が大幅に短縮され、栄養量の計算も病態に沿って正確に行えるようになりました。空いた時間を栄養評価に集中して使えるようになり、より深く患者様と向き合えています。業務効率化が質の高いケアに還元される、良い変化が生まれています。



※1：DXとは、デジタルトランスフォーメーションの略称。デジタル技術を活用して業務プロセスを根本から変革し、新たな価値を創出すること。

※2：RPAとは、ロボティック・プロセス・オートメーションの略称。人間がパソコン上で行う事務作業や提携業務（データ入力や集計、システム間の転記など）を、ソフトウェアのロボットに代行させ、自動化する技術のこと。



オススメ
します！

院長
姜琪鎬

在宅医療の現場では、教科書に答えのない場面に日々直面します。透析の中止を望む患者さんや、最期まで点滴を希望するご家族、ひとり暮らしでの看取りなど、そのたびに「これでよかったのだろうか」と自問します。本書は、そうした問いに対する永井先生の豊富な経験を惜しみなく共有してくれる一冊です。

永井先生とは14年前、開業前に見学させていただいた頃からご縁があります。当時から「患者さんご家族を中心に、多職種がチームとして支える」という姿勢を貫かれており、その軸は今も変わりません。本書からも、その一貫した信念と実践が伝わってきます。

本書は26のパターンごとに構成されており、必要な場面から気軽に読み進められる実践的な内容です。具体的な事例が豊富なため、自身の経験と重ねながら理解を深めることができます。「パターン化」は思考を縛るものではなく、患者さん一人ひとりに丁寧に向き合うための土台となる考え方として、自然に受け入れられます。

また、「患者本人と配偶者の意見の違い」「家族間の対立」「精神疾患患者の終末期医療」「AYA世代のがん患者と家族への支援」など、現場で直面しやすい多様なテーマを細やかに取り上げている点も大きな魅力です。

本書は医師だけでなく、看護師や介護士、ソーシャルワーカー、言語聴覚士など、多職種で共有したい内容となっています。当院でも研修の参考書として活用したいと考えています。

在宅医療に「正解」はありませんが、よりよい考え方の道筋があります。本書はその道筋を穏やかに示し、迷ったときに立ち返る支えとなってくれる一冊です。在宅医療に関わるすべての方に、心からお勧めします。



夏バテ予防に ミネラルを補給しよう！

夏バテは水分不足だけでなく、汗で失われるミネラル不足も原因の一つです。特にカリウムやマグネシウムが減ると、だるさや食欲低下が起きやすくなります。これらを意識して補うことで、体のバランスが整い夏バテ予防につながります！暑さが本格的になる前から意識していきましょう！果物や野菜にはカリウムが多く含まれており、手軽に補給することができるので取り入れてみてください！

小松菜としらすのおひたし



約
100
kcal

約5分

材料(2人前)

- ・小松菜：200g（一束程度）
- ・しらす：30g
- ・しょうゆ：小さじ2
- ・白だし：小さじ1/2

作り方

- ①小松菜を30秒～1分ほどゆで、水気を絞る
- ②しょうゆと白出しを加え和える
- ③しらすをのせる

カリウム約800mg
マグネシウム約70mgを
摂取できるよ！

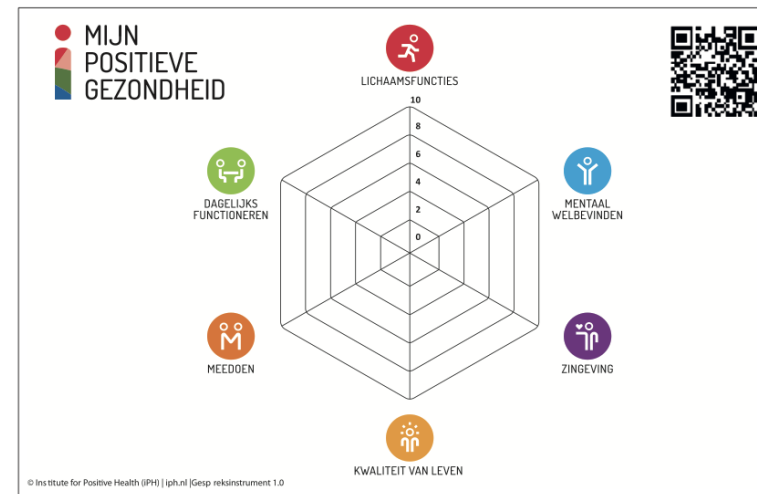


ポジティブヘルスってなに？

超高齢社会・人生100年時代を迎えた現代において、「健康」の定義が問い直されています。世界保健機関（WHO）が定義する「完全に良好な状態」を健康とすると、生活習慣病などの慢性疾患や障害を抱える多くの人が「健康ではない」ことになってしまい、理想的な状態を求めるあまり医療への過度な依存を招くという課題がありました。

こうした背景から、2011年にオランダの医師マフトルド・ヒューバー氏が提唱したのが「ポジティブヘルス」という新しい概念です。ヒューバー氏は、健康を静止した「状態」ではなく、「社会的、身体的、感情的な問題に直面した時に適応し、本人主導で管理する能力」と再定義しました。つまり、病気や障害があっても、周囲の支えを得ながら人生を前向きに歩む力こそが健康であるという考え方です。

ポジティブヘルスの構成



ポジティブヘルスは、「身体の状態」「心の状態」「生きがい」「暮らしの質」「社会とのつながり」「日常の機能」という6つの次元から構成されます。実践の場では、これらを0～10点で自己評価する「くもの巣」と呼ばれるレーダーチャートのツールが用いられます。患者さんはツールを通じて自分自身を振り返り、医療者は患者にとって何が一番大切なのか（生きがい）にひたすら耳を傾けます。そして、患者が自ら選んだ現実的なアクションを本人主導で実現していくようサポートします。

世界・日本での取り組み

オランダでは、国民の自助を促す「参加型社会」への転換や、財政難に伴うヘルスケアの効率化という社会的背景とこの概念が合致し、地方自治体や家庭医、多職種が連携する健康センターなどで広く導入されています。患者との対話の糸口として日常的に「くもの巣」ツールが活用されており、本人の真のニーズに寄り添うことで過剰な医療化を避ける工夫がなされています。

日本でも2019年に初めて研修が開催され、医療や介護の現場での実践が始まっています。在宅医療やコミュニティナース、地域薬局などにおいて、患者の「できる力」や「やりたいこと」に焦点を当てたコミュニケーションの改善に役立てられています。

医療の役割の変化

ポジティブヘルスの導入により、医療の役割は単に病気を「正常に戻す」ことから、「疾患や障害に適応する能力を支援する」ことへと変化します。健康を生きがい達成のための手段と位置づけるこのアプローチは、患者のより良い人生を支えるとともに、医療従事者の疲弊防止や過剰な医療の抑制にもつながると期待されています。